

平成30年度 第2回 飯塚圏域 相談支援部会 会議録

1) 日時 平成30年6月15日(金) 15:00~16:45

2) 場所 サン・アビリティーズ飯塚

3) 参加者(30名)

◎指定相談支援事業所(16ヶ所:20名)

(花/さんあいサポート/ひばり/ウイング飯塚/大地の森/パーソナルプラン/誠心園/もみの木/森の子/こころ/ボイソン/みかん/飯塚市社協いづか/飯塚市社協ほなみ/はくりゆう園/たいよう)

◎飯塚圏域障がい者地域自立支援ネットワーク 全体会委員(1名)

◎飯塚市・嘉麻市・桂川町(3名)

◎障がい者基幹相談支援センター(6名)

4) 内容

①意見交換会(15:00~)

【加算についてのアナウンス(グループワークの前に)】

→別紙参照

【グループワーク】

…6Gに分かれて意見交換後、グループ発表

◎計画作成業務に関すること

●放課後等デイサービスの支給表記(-8日/月→23日/月)については、2市1町とも23日/月となっている

●モニタリング/計画の加算に関する様式や提出の有無、サインの有無等が行政によって異なるので大変

→各行政に確認する事が必要

●初回加算の取り扱いについて、しばらくサービス利用が途絶えた場合、どのくらいの期間が空けば該当するのか?

●更新月が集中(嘉麻市)しているので、どうにかならないものか…

●モニタリングに関する加算など、自分がやっている事が該当するのかどうか自信がなく不安の中で請求している

●モニタリングの加算等も含めた様式について、記載例があるとよい

●モニタリングの期間については、これまでも行政と協議しながら決定して頂いたケースもある 引き続き、行政とのコミュニケーションを図りながら対応していく事が必要だと思う

●担当者会議加算については、関係機関が全員そろわないと請求できないのだろうか?

- 更新月については、モニタリングや新計画案を踏まえての担当者会議が増えると思われる 大変である
- モニタリングに関する加算（事業所訪問や担当者会議）についての様式が増え、正直、手間がかかる
→従来のモニタリング様式を工夫して1枚にまとめられないだろうか？（従来のモニタリング様式の中に、担当者会議の開催日時と場所／参加機関等の記載欄や、事業所訪問した日時の記載欄等を追加）
- 新単価で収入減を感じる

◎勉強会や企画に関すること

- 事業所側との意見交換会（事業所側からサービス等利用計画に対する印象を聞きたい）
- どこまでが相談員の仕事なのだろうか…という事について、赤裸々に討論してみたい
- 事業所を頻繁に変更したり、なかなかサービスに繋がらないケースに対しての対応を知りたい
- 失敗事例も含めての実践を知りたい（失敗事例から学ぶ事もある）

◎その他

- 事業所の人手不足（特にヘルパー事業所）により、対応してもらえないケースがあり苦勞している
- 社会福祉協議会が行っている金銭管理支援の待機者が多く、支援を受けられない状況にあり困っている
- 重度の方の受け入れが困難な施設が多く調整に苦勞している
- 18歳未満のA型事業所利用の際に手続きが初めてで苦勞した
- 新しい事業所が立ちあがっているが情報が届かない
- 相談支援業務をやり始めて、横の繋がりができてきてよかったと感じる

②アナウンス（16：30～）

- ・事業所紹介
 - 重症心身障がいサポートセンターひばり
- ・就労意見交換会について
 - 4月24日（火） 就労継続支援A型・B型意見交換会開催
- ・地域懇談会について（療育支援事業）
 - 5月31日（木） 飯塚圏域地域懇談会開催
- ・医療ケア部会について
 - 1回／2ヶ月の定例部会と別月に3作業部会（ツール開発部会／情報管理・災害対策部会／研修部会）を発足